

企業サポートぐんま

February-March 2017

2・3
合併号



公益財団法人 群馬県産業支援機構

平成29年3月27日付けで事務所が移転します！
詳細は裏表紙をご覧ください

INDEX

特集 利益に導く交渉の仕方と人間関係づくり	1
企業ルポ 株式会社群桐産業	5
ここに注目!! 地域のこの企業 神田産業株式会社	7
いなにわ動物クリニック	8
旭化成(株)「第50回グッドカンパニー大賞」優秀企業賞受賞	9
お知らせ 群馬県からのご案内	9
受・発注ニュース	13
事務所移転のお知らせ	15



登録番号第27-62号

企業ルポ

No.219

株式会社群桐産業

群馬県太田市数塚3201
 電話/0277-78-2479
 資本金/6,000万円
 社員数/83人
 URL/http://www.grr.co.jp/



代表取締役
濱屋 博氏

地元で支持される環境企業のパイオニア

「ともに」、創業者である山口茂会長が大切にしている言葉である。お客様とともに、地域とともに。自分達だけよければいいというわけではない。創業以来その精神で事業を続けてきた。

そのことの大切さを思い知らされた出来事がある。平成24年5月31日、人為的ミスによる火災が発生した。山口会長と濱屋社長は当日夕方には報告と謝罪のため真っ先に地元自治会長宅を訪ねた。しかし留守だったため翌早朝、再度足を運ぶ。二人の胸中に「どう責任を取るか。またこのまま続けられるのだろうか。」との思いもある中、すでに自治会は会合を済ませ群桐産業に対して意見の一致をみていた。「再建して引き続き頑張ってもらいたい」。涙が出るほど嬉しかったと濱屋社長は話す。群桐産業では、以降この日を「防災の日」として、全社を挙げて安全意識を高める様々な取り組みを続けている。

現在、同社事業の柱は3本。再生油の製造販売、グループ会社群桐エコロによる一社完結型の全量リサイクル処理による人工砂の生産販売、低濃度PCB廃棄物の無害化処理である。廃棄物の適正な処理を通して「将来の地域社会の安定的な発展に必要なものとなり、廃棄物処理という分野についても誰もが身近に感じられる環境がつけられることを望む」と言明する山口会長。持続可能な社会に向けてしっかり足場を固め役割を果たしている。



廃油の再生で創業

群桐産業を山口氏が一人で創業したのは昭和59年。主に使い古した自動車のエンジンオイルなどを再生処理して重油に代わる燃料として販売する事業を始めた。「日本に油の井戸はない。廃油を再生すれば商品になる」と見定めて、ビジネスチャンスと挑んだ。仕入れ先開拓、販売先拡大の営業、品質の良い再生燃料油の製造、そしてタンクローリーの操作をこなしてきた。現在、タンクローリーは20台に増え、メインの販売先も初期の染物業者から、セメント工場やアルミメーカー等へ移っていった。

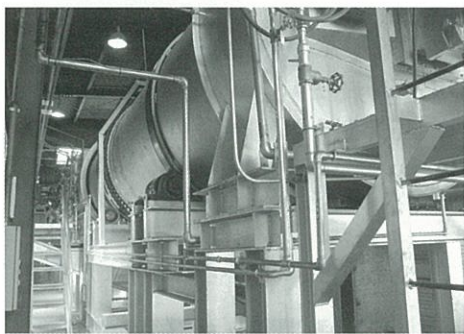
再生油を扱うことから、世界の石油価格の影響は免れない。市場での原油価格は毎日チェックしている。重油の6~7割の額であれば順調だが、重油が少しでも安くなれば即座に再生油は売れなくなってしまうからだ。とはいえ、販売が思うようにいなくても、廃油を供出してくれる業者からは回収し続けなければならない。売れないから引き取らないでは役割を果たせない。2万社の回収対象企業を抱えるが、「大変な時にでも回収し続けることが信頼につながる」と濱屋社長は話す。



会社を支える人材

廃油回収を担当する20人は、タンクローリーを駆るドライバーでありながら、営業の名刺を持ち歩くちょっと異色の存在だ。彼らは回収先をまわる道すがら、新規のお客になりそうな修理工場や販売店を見つけては営業活動をする。また、客先では単に回収作業をするだけでなく、廃油置き場を整頓するなどの心遣いを忘れない。

群桐産業では毎月1回全体会議で主に安全や衛生にかかわる勉強会を行っているが、回収チーム全員での会議も毎月実施しており、成功例や失敗例を開示し合い共有している。例えば、回収先での作業について、空になったペール缶やドラム缶をどうするかなど、細部にわたってより信頼されるふるまいを追求している。5年前からは班体制を敷き、新規営業が得意、顧客へのフォローが得意などの特長を考慮してチーム編成している。その他にも、新人ドライバーは1か月は助手席に乗りOJTで教育を受けてから独り立ちをするなど、個で動きがちな職種だが、協働の精神が養われ、結果的にモチベーションの維持向上が図られる仕組みが機能している。



このような取り組みから、業界では珍しい週休2日制度が確立され、祝日も振替で対処できるようにした。扱う仕事量が軽減することなく仕事が回っているという。さらに、人材の登用に男女の差はなく、役員にも女性を積極的に起用し、女性ドライバーも活躍している。

必要とされる企業へ

一社完結型の全量リサイクル処理による人工砂は、廃棄物を埋め立てずに100%のリサイクルを実現させて生まれた新しい資源だ。廃棄物等を1,300度以上の高温で加熱し、有機物を熱分解し無機物を熔融することで生じたガラス質や結晶質の固化物で安全性も折り紙付き。骨材として使われる天然砂の代替としての活用等が可能だ。低コストで安定供給でき自然破壊の抑制にもつながる。現在は、太陽光発電の敷地に雑草除け、ピットの埋め戻し、浄化槽埋設時の保護砂等で引き合いがある。

PCB廃棄物は、残留性有機汚染物質から人の健康の保護及び環境の保全を図る目的で日本が締結しているストックホルム条約により、2027年までに国内から排除することが決まっている。あと10年という期限付きの仕事であるが、国内最大級の無害化のための処理施設を備えて、健康や環境保護の最前線の取り組みに果敢に挑戦している。

この仕事における信頼性には設備と技術力も重要。根幹の焼却施設も納得の設備を整備するために設計も自前で行っている。温度管理や水分管理、廃棄物毎の混合比等の微妙な差が適正処理に影響を与える中、ソフト面にかかわる特許も取得した。「『これだけの技術がある』とお客様に安心してもらえる」と濱屋社長。

廃棄物処理は許可で成り立っている仕事。廃棄物の扱いや処理法も時代で変わる。判断に迷うことが少しでもあれば国へも県へもこまめに足を運ぶ。些細なことでも決して勝手な判断はしない。当たり前のことだが、基本を大切にする姿勢を貫く。エコの重要性が今後も高まる中、群桐産業が必要とされる場面は増えていこう。この4月には、本部ビルが完成する。山口会長が「だまっけてもお客が来るように」を目指し、お客様、地域とともに存在価値をさらに高めていく方向性に揺るぎはない。

